

様式③

提出日 令和3年 1月22日

2020年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「八重山地方における小学校の危機管理について

(特にコロナ問題に関わって)」

氏名：伊波 琉 ・上江洲 吹奈 ・神田 成駿 ・島袋 小春

所属学部学科：こども文化学科

2019年に中国の武漢からコロナウイルスが発生し、2020年1月の半ば頃に日本で初めてのコロナウイルス感染者がでて、約1年が過ぎました。去年の今頃は世界中がコロナウイルスでパニックになっており、日本でも各地に感染が広まっていきました。はじめはインフルエンザのような軽い気持ちで捉えていた方もたくさんいたと思います。しかし、芸能人など有名な方々が亡くなったり、まわりに死者が増えてきてからコロナウイルスの恐ろしさがとても強くなりました。そんな中、卒業生と先生と保護者のみでおこなわれた卒業式は、これまでとは違って、在学生や家族以外の立ち入りが認められずに本来よりは何か物足りない形で式がおこなわれました。また、学校も長期間にわたって休みになるところもたくさんあり、これまで生きてきた中で体験したことも無いことだらけでした。

私たち沖縄大学は6月頃から学校を再開し、久しぶりに登校することができました。その際、マスクは必ず着用、各教室にアルコール消毒の設置、席は間隔をあけて座る、暑いのでクーラーがついているが絶対に換気で窓を開ける等、今までの普通の学校生活とは違ってたくさんの対策が取られており、なんだか違和感があったのを覚えています。そんな中、私たちはゼミで琉球弧研究をおこなうことになりました。研究テーマを考えていた頃は、沖縄本島ではコロナウイルスがとても流行っていた時期だったが、離島の地域では、本島よりは感染がまだ広がっていない状態でした。離島は距離があるから、コロナウイルスの上陸はゆっくりだろうとは思っていましたが、コロナウイルスが大きく広がる前に何か対策をしているのか気になりました。そこで、本島から遠い且つ広い地域で、コロナ感染者がまだ少なめの地域だった石垣島の小学校のコロナ対策について研究することに決めました。

研究方法としては、去年も琉球弧研究で実際に宮古島を訪れて研究したので、今年も同じように2年次梶村ゼミ生全員で、夏休みに石垣島を訪れる予定で計画をたてていました。しかし、コロナ禍の中では思うようにはいかず、コロナ感染者も増えていたため、島への来客

は極力避けるように言われていました。そのため夏休みに入る前くらいには、石垣島行きのをキャンセルし、訪問せずに電話やメールでのやり取りに急遽変更しました。

最初に、石垣島の小学校にお電話を入れて研究の意図を伝え、メールでアンケートを送り協力していただくという方法をとりました。本島と比較するために、本島の小学校にもお電話を入れてアンケートにご協力いただきました。それぞれの小学校から、学校名が特定される事がないようにして欲しいとの事だったので、学校名は伏せさせていただきますがご了承ください。

石垣島も沖縄本島の小学校も両者とも学校は休みになり、だいたい5月くらいからの学校再開になっていました。その際、コロナ対策としては検温・消毒・マスク着用の徹底と、石垣島の小学校では先生方の集会の持ち方を工夫したり、本島の小学校では職員室ではシールドをつけるなど、他にもたくさんの対策が取られていました。さらに、本島の小学校とは大きく異なっていた部分は、石垣島の小学校は新学期の学級担任発表と教科書配布を、個別訪問して玄関先でおこなっていたところでした。また、外部からの支援が少ないことと、本島から赴任した職員が本島に戻れないという、離島ならではの問題も起こっていたそうです。

これらの結果から、学校が休校になっていたときも先生方は、早く子供たちを登校させることが出来るよう、たくさんの対策を考えていたことが分かりました。本島と離島の小学校では異なった部分もたくさんあり、本島よりもコロナの広がりが遅れている分、ニュース等で状況をみながら、異なった対策が出来ていたのかなと感じました。学校便りやホームページでお知らせしたり、職員へ新型コロナウイルス感染症対策への周知をレベルが変わった時に確認したりなど、保護者を心配させないようにしている部分もあり、本来の業務がコロナ対応に割かれていることが伝わってきました。

今後、私たちが教員になる頃にもまだ with コロナの時代が続き、コロナと共に生活していくことが予想されています。この研究を通して、コロナと共存していく中でどのような対応ができるのか、どうすれば子どもたちの授業にも支障がでないのか、今のうちにたくさんの案を考えていく必要があると感じました。また、職員の方々の臨機応変な対応や対策を学ぶことが出来たので、今後の大学での模擬授業などの取り組みの際に、コロナの状況を考え配慮していく場面がたくさんあるので、しっかり活かしていこうとおもいます。

IX 指導教員コメント

現地調査ができなくなった状況でよく頑張ってくれたと思います。本島の小学校と離島の小学校を比較してリスクマネジメントの中和を明らかにしたのは良かったです。それと今後の課題として、教員行政の指導の有無や内実も知りたいところです。